



委員会等活動成果

国際関係委員会 欧州調査部会

“The Actuary”の記事紹介

Pick Up

英国アクチュアリー会月刊誌「The Actuary」2004年12月号から

2004年12月22日

モーリス・レビューへのSIASの回答 SIAS Views On Morris

8月号の記事紹介で触れた通り、アクチュアリーという専門職のあり方についての調査がモーリス卿により進められている。その一環としてモーリス卿は6月に諮問書を発表し、9月10日を回答期限として各界からの意見を広く募集した。これには、100を超える団体・個人から様々な意見が寄せられた。英国アクチュアリー会からの意見書も、その一つである。これは69ページに及ぶもので、9月9日に発表されている。

ところで、同じ日にもう一つの意見書があるアクチュアリー関連団体から公表されている。その団体とは、ステイプル・イン・アクチュアリー協会(SIAS: Staple Inn Actuarial Society)。月刊誌「The Actuary」の発行団体である。

The Actuary 12月号では、SIAS 事務局長である Adrian Hartshorn 氏が、この SIAS の意見書の概要を紹介している。

■ ステイプル・イン・アクチュアリー協会(SIAS)とは

SIAS は、ロンドン・アクチュアリー会の受験生の集まりとして 1910 年に設立された。もともとは試験勉強の支援や相互研鑽を目的としていたが、その後活動範囲はアクチュアリーに関する様々な分野に拡大している。現在は、正会員になりたての若手アクチュアリーと受験生から構成されており、英国内外で計 5000 人の会員を有する組織に成長している。

今日 SIAS は、若手アクチュアリー向けの論文や交流会などを企画・立案するだけでなく、アクチュアリー会に代わり月刊誌「The Actuary」を発行しているほか、若手アクチュアリーの視点をアクチュアリー会の活動に活かしていくための活動、地域のアクチュアリー会との連携、若手アクチュアリー同士の交流の促進、などの活動も積極的に行っている。



■ あえて独自の意見書を作成した意義

このように SIAS と英国アクチュアリー会は、別組織ではあるものの密接な関係にある。にもかかわらず、SIAS は今回、なぜ英国アクチュアリー会の意見書とは別に、わざわざ独自の意見書を作成したのだろうか。この点について Adrian 氏は次のように述べている。

「SIAS 委員会は、諮問書に対する意見書を SIAS として発表すべきである旨を、逸早く決定しました。なぜなら、アクチュアリー専門職に加えられようとしているどのような変更も、長期に亘り、特に影響を受けるのは、若い SIAS の会員なのですから」

■ 意見書要旨とアンケート調査の結果

意見書本文は、質問一つひとつに対してコメントする形式で、全体で 32 頁。The Actuary 12 月号の紹介記事では、利益相反についてより一層の透明性が求められること、更なるピア・レビューの要件が導入されるべきであること、監督者・代表者たるアクチュアリーの役割は明確に切り分けられるべきであること、投資政策への助言等アクチュアリーの役割を拡大するべきであることなど、モーリス卿に送付した際に添付された要旨 7 項目を紹介している。

また SIAS は意見書作成にあたり、全会員を対象として 80 項目のアンケート調査を実施した。全調査結果は、意見書に別表 C として添付されている。記事では、アクチュアリーはその役割を遂行するために相応な能力を備えている（とてもそう思う 20%、そう思う 67%）、アクチュアリーは他の専門職から学ぶ点がある（とてもそう思う 22%、そう思う 52%）など、この調査結果のハイライトをいくつか紹介している。

原文をお読みにになりたい方は英国アクチュアリー会の HP をご覧下さい。

<http://www.the-actuary.org.uk/>

"SIAS VIEWS ON MORRIS"